

『颯と流』は、富士・東部地域教育の様々な活動、情報等を掲載し、

## 地域教育の「横の連携」と「縦の接続」

を目指す富士・東部教育事務所が発行する情報紙です。1年に6回程度の発行を予定しています。

富士・東部教育事務所地域教育支援スタッフでは、

- (1) 家庭、学校、地域の連携による地域ぐるみの教育活動の活性化を図る。
- (2) 地域における体験活動・ボランティア活動の環境を整備し、地域教育力の活性化を図る。

を目標に掲げ、地域の教育力を高めるためのコーディネーターとして、家庭・学校・地域社会がお互いに連携を深め、青少年の健全育成のため活動しております。



南北都留の高等学校・支援学校の貴重な実践が満載の「実践報告集」を発刊しました。ご興味のある方は富士・東部教育事務所までお問い合わせ下さい。  
来年度もよろしくお願ひします。

## 地元で働く魅力を知ろう！

### 吉田中学校 ふるさと発見ワークショップ

11月15日(金)、富士吉田市立吉田中学校(渡辺賢一校長)において、座談会形式で「ふるさと発見ワークショップ」が行われ、3年生170人が参加しました。地元で働く若手社会人から話を聞くことで、地元で働くことの魅力を知り、ふるさとで働くことを選択する生徒を増やしたいという狙いがあります。富士吉田市立教育研修所が「かえる舎」の協力を得て実施し、生徒たちは興味に応じて講座を選び、富士吉田地区、西桂地区で働く10名の若手社会人の講師の話に熱心に聞き入り、積極的に質問をしていました。



銀行員、レストランの経営者、工場に勤務する方、建築関係の方、IT企業で働く方と、多彩な講師陣によるワークショップは、生徒たちが「仕事」や「働くこと」について考える貴重な機会となりました。更に、講座では講師の方の職業についての話に止まらず、「生き方」「考え方」についても話が及び、更に生徒たちは日々過ごしている富士吉田市の魅力を知り得ることができました。参加した生徒は、将来就職する場所を考える時に今回の話を参考にしたいと話していました。

講師の方の話に聞き入る生徒

「社会全体で子供たちの教育を担う」一つの実践例として、モデルとなる事業でありました。来年度は講座を市内の全4中学校で実施する予定です。

【 カラー版は、富士・東部教育事務所のHP からご覧いただけます。】

URL : <https://www.pref.yamanashi.jp/kyoiku-ft/jouhoushibackn.html> 】

地域の皆様のご支援ご協力を得ながら、実りある実践となるよう努めて参ります。各事業についてご意見ご要望がありましたら、地域教育支援スタッフまでご連絡ください。 ※連絡先 富士・東部教育事務所 地域教育支援スタッフ TEL : 0554-45-7841

## 秋山小学校 国際交流集会



令和2年1月24日（金）、秋山小学校（長谷川和典校長）が山梨県観光部国際観光交流課と連携し、全校児童49名が3名の国際交流員（アメリカ・インドネシア・フランス出身）と交流をする国際交流集会を開催しました。外国の文化や言語に触れて興味や関心を持ち、日本との違いに気付かせる、加えて、5・6年生は「外国語」で学んでいる英語（あいさつや簡単な言葉）を実際に使うこともねらいとしています。

当日は、校長先生からの「色々な国のことや外国や日本の良いところを考える機会にして欲しい。」というお話に始まり、講師の先生方の自己紹介や児童会長の話、そして「ふるさと」を全員で歌い講師の先生方を歓迎しました。全校が3つのグループに分かれて交流をしました。5・6年生の部屋では、フランス出身の講師が、「フランスで消費されるバケットの数は何本だと思う？」「フランス人と日本人が待ち合わせをしたらどちらが先に到着すると思う？」といった子どもたちが興味を引く様な質問を投げかけながら、食文化、多様性、日本との違いなどを分かりやすく説明していました。子どもたちは身を乗り出して話を聴き、質問が途切れることはありませんでした。保育所からALTの先生とふれあう機会を設けている秋山の子どもたちは物怖じすることなく、積極的にコミュニケーションを図っている姿が印象的でした。

秋山小学校では、低学年・中学年・高学年がそれぞれグループとなり学習活動や学校生活を送る工夫がされ、清掃は1年生から6年生まで縦割りグループで実施しています。そのためか、集会時も年齢が上の児童が下の児童の面倒を積極的にみて、困った時には声かけや手を差し伸べるなどの姿が見受けられ、思いやりの心の涵養と一人ひとりが主体的に学習に参加しようとする意識の高揚が図られていることがよく分かりました。今回の活動を通して児童は体験的に言語や文化への理解を深めることが可能となり、今後の外国語活動へ繋がる有意義な活動でした。



## 都留高校 野球部

### 保育園児向け野球教室



12月25日（水）、都留高校（渡邊信介校長）野球部が「総合的な学習の時間（つる探：都留高探究プロジェクト）」の授業の一環として野球教室を都留高校グラウンドにて開催し、大月保育園（井上健園長）の園児30名程が参加しました。子どもの野外での遊び場所の減少やスポーツ離れを背景に、子どもがスポーツに親しむ機会、野球に親しむ機会を設けることや、高校生が地域の子どもたちと関わることを通して地域について学び、貢献することを目的としています。

当日は、雪解けしたばかりのグラウンドにて、高校生の「さあ、おいで。」の掛け声で、子どもたちがお兄さんたちに向かってまっしぐらに走り寄りました。バッティング練習では、高校生が一人ひとりの子どもの名前を呼びながら、分かりやすく打ち方を説明していました。そして、バットがボールに当たり飛ぶと、「うまいぞ！」と褒め言葉を掛け、中には子どもを抱き上げて喜び生徒もいました。子どもが寒くないか心配しながら接する姿も見受けられました。日頃の部活動の運営では、生徒が主体的にメニューを作り、互いに声を掛けながら学び合い、試合時の選手の起用やゲームづくりまで行っている生徒たちだけに、子どもと関わる際に一人ひとりが使うコトバや振る舞いを工夫し、元気に動き回る子どもたちに対して臨機応変に対応している姿に頼もしさを感じました。

都留高校と大月保育園の交流は年に数回ありますが、交流を通して子どもたちは異年齢の人とも臆することなく接することができるようになり、また、野球部からプレゼントされた野球道具で楽しく遊ぶ子どもが増えたそうです。高校生にとっても、日頃の学びを実社会で生かす良い機会であり、信頼してついてきてくれる子どもたちと触れ合うことで、他者を思いやる心の育成や地域への愛着を醸成する「学び」と「活動」の循環ができています。



## 第8回 月江寺学園音楽祭



2月15日(土)、学校法人月江寺学園【月江寺幼稚園(山口隆之園長)・富士学苑中学校・高等学校(臼井庄作校長)】が富士五胡文化センターのふじさんホールにて第8回月江寺学園音楽祭を開催しました。当日は受付や司会をはじめとし、生徒が主体的に運営を行い、会場は幼稚園児、中学生、高校生や教育関係者、保護者や卒業生で熱気に溢れていました。

午前の部では、幼稚園の準年少児から年長児それぞれが、日頃の練習の成果をハーモニカやメロディオンを使った合奏や合唱で披露しました。一人ひとりが元気いっぱいに発表する姿に、会場からは盛大な拍手が送られました。午後の部では、中学校合唱団、高校合唱団、弦楽合奏部、能楽部とゲストとジャズバンド部による共演がありました。ジャズヴィブラフォン奏者、コンポーザーである中島香里さんとジャズ部の共演はエネルギーで素晴らしいものでした。ジャズ部の部員は「ゲストに負けないように頑張りながら、このステージを楽しんだ。」と達成感のある表情で述べていました。「先輩が先輩の姿を見て音楽祭をつくっていくので、年々レベルが高いものとなってきている。」と述べた生徒もいました。生徒と教職員による合唱はとても迫力があり、圧巻でした。

ホールは優雅で異なるジャンルの音楽や楽器の演奏で溢れ、日常を離れて豊かな時間を過ごすことのできた音楽祭でした。幼稚園から高校までの縦の繋がりが感じられる、また、豊かな情操を涵養する活動でありました。



## 明日を拓き、未来を創る !!

### 富士北稜高等学校 第13回生徒発表会



2月11日(火)、富士北稜高等学校(羽田孝行校長)にて「第13回生徒発表会」が開催され、教育関係者、企業の方々、近隣の中学生、保護者や卒業生の参加のもと、1年次生から3年次生が一年間の学習成果の発表を行いました。自ら課題を決め、他者との対話や解決への過程を大切にしながら探究活動を行い、その成果を発表することで発表力を養い、また、他系列の発表を聞くことで幅を広げるとともに傾聴力を身に付けることが目的です。

富士北稜高校では、マイスター制度を活用しており、どの発表も各系列の特徴に応じたレベルが高く、興味深い発表でした。「福祉健康系列」の発表内容は、高齢者や障害者が地域にでて交流しやすい町づくりを目的に地域マップを作成したというものでした。障害者へのインタビュー調査をもとに、使用頻度の高い施設付近の道路状況や車椅子の使用がしやすいかどうかについてフィールドワークを行い、その結果を地域マップにまとめました。そして、その地域マップを外出時に活用してもらえるよう障害者等に配布し、また市役所の福祉担当者の前で地域マップについてプレゼンを行うという、地域の活性化につながる研究内容でした。

生徒たちが自ら課題を見つけ、その解決に向けて仲間と協働しながら取り組み、試行錯誤して作品を製作し、また調査研究をすることで大きく成長している姿が印象的でした。また、実社会の中で高校生の発想や感性を生かせる地域と連携した活動も多く、生徒たちに社会の一員であるという自覚や郷土愛が育まれていくことが伝わってくる発表会でした。



教養系列	『富士山信仰に関わる2つの御師 ～吉田御師と川口御師を比べて～』
福祉健康系列	『地域マップで高齢者や障害者の生活を豊かに!!』
建築デザイン系列	『会津サザエ堂の模型』
電気情報系列	『温湿度気圧計の作成』
機械テクノロジー系列	『技能検定・刃物研ぎ・3Dプリンタ・スプーン製作・ロボットコンテスト』
総合ビジネス系列	『フランスの高校生との交流・観光甲子園・ふるさと納税リーフレット・やまなしの食』

## 日々の学習成果を発表！

上野原高等学校

## 第9回 総合学科発表会



12月14日(土)、上野原高等学校(小佐野景賀校長)にて第9回総合学科発表会が開催され、教育関係者、地元や近隣の中学生、保護者の参加のもと、1年次生から3年次生が一年間の学習成果の発表を行いました。自らの成長を実感し、学びの意義を振り返ることに加え、総合学科高校を理解してもらうことが目的であります。上野原高校では生徒一人一人のキャリア教育に対応した「ドリカム=システム」を実施しており、その特徴は、6つのプラン制を採用し生徒一人一人が描く多様な夢の実現をサポートする点にあり、生徒は様々な体験を通して、自らの夢を見つけ、育み、実現を目指しています。

当日は、全て生徒により運営され、内容は一年間の学習をとおして生徒が成長をしている姿がよく分かるもので、生徒たちも自らの成長を実感し、自信を持った発表から自己肯定感が培われている様子が窺うかがえました。郷土研究「上野原の酒まんじゅう」の発表では、現地調査を行いながら3つのまんじゅう店を比較し、また県内の高校生への認知度の調査を通して、酒まんじゅうの普及には地域の活性化が必要であるという結論を導きだした非常に内容の濃い発表でありました。更に、3年次生のポスターセッションでは、中学生がよく調べてある高校生の発表に感心し、質問をする場面も見受けられました。

生徒会長より、「日々の生活のすべてが成長につながり、進路実現につながっている。」という話があり、日々の学びと学んだ知識を活用して課題解決能力を育成する教育の成果が出ている発表会でした。当日の発表内容は次のとおりです。

- |                                      |                       |
|--------------------------------------|-----------------------|
| 1) 総合学科の紹介                           | 4) 授業発表：「郷土研究」        |
| 2) 1年次発表：ドリームスピーチ                    | 5) 卒業生からのビデオメッセージ     |
| 3) 2年次発表：課題学習<br>～修学旅行・インターンシップを通じて～ | 6) 3年次 ポスターセッション：課題研究 |
|                                      | 7) 3年次発表：課題研究         |



## 学習支援スタッフの派遣

### ～吉田高校 教育ボランティア活動～



吉田高等学校(高保裕樹校長)では、平成20年より毎年2月に地域貢献(ボランティア活動)の一環として近隣の小中学校に「学習支援スタッフ」を派遣しています。同校ではこの事業を通して、高校の教育活動への理解を深めてもらうとともに、小中高の連携により地域全体の教育力向上を目指しています。

2月4日(火)、吉田高校の3年生7名が、忍野小学校(堀内博文校長)の2年生と5年生の教室に入り、授業中の学習支援や清掃・給食の手伝いなどを行いました。忍野小学校の児童はとても明るく元気があり、始めの自己紹介の場面では、次から次へと高校生に質問をし、高校生を温かく迎え入れました。中休みの時間になると大勢の子どもが

高校生の周りに集まり、好きな色や食べ物、英語が話せるかといった質問をしていました。校庭では、自分たちでルールを決めながら鬼ごっこをして高校生と一緒に思いっきり遊ぶ姿も見られました。参加した高校生は、「最初はどうか分らなかったが、先生方にサポートしていただいて、次第に打ち解けることができた。2年生は、思ったよりも幼く、気持ちの伝え方や、接し方などを見つめなおすことができた。」と述べていました。

高校生にとっては、家庭や学校で学んできた知識・技能が実践的なものになる、また、小学生にとっては、高校生から「できたね。」「いいよ。」といった声かけや受け入れてもらうことで豊かな人間性の涵養につながる機会となりました。更に、異年齢の人とのかかわりを通して、両者にとって社会性や協調性の育成につながる貴重な機会となりました。



ここで学べる ことがある!!

## 都留興譲館高校 教育実践公開発表会



都留興譲館高校（高野修校長）では、1月31日（金）に都留市の都の杜うぐいすホールにおいて「教育実践公開発表会」を開催し、教育関係者、企業人、学校評議員、地元中学校長、保護者の参加のもと一年間の学習成果の発表を行いました。大学や産業界などと連携し、実践的・体験的活動を通して、3つの力（知識・技能、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力）の育成を図り、将来の指針を考える場とすることが目的です。

当日は1・2年生と英語理数科が教育実践発表を、また工業科の3年生が専門課程で学んできた内容をもとに、今年度取り組んできた課題研究の成果を発表しました。電子工学科の生徒が、「Raspberry Pi を活用したレポート提出BOXの作製」を発表しました。実際に大人の背丈ほどのBOXを持参し、内部をテレビモニターで映しながらその構造と機能を説明しました。レポートをBOXに入れるとバーコード認識により学年を振り分け、生徒氏名と提出日がコンピュータに自動で入力されるものです。軽いレポートが飛び出さないように、また火災が起きないように細部にまで工夫が施されていました。

全ての発表が学科の特性を生かした専門性の高い内容であり、動画を活用した質の高いプレゼンテーションは見応えがあるものでした。仲間と協働しながら、学んだ知識・技能を生かして直面する課題を解決し、目標を到達しようとする過程で生徒たちは多くのことを学び、また「ものづくり」の楽しさや達成感を実感したことが伝わってきました。夢をもった将来のスペシャリストが育っていると感じられる活動でした。



### 教育実践発表

- 1 学年 「エネルギー教育研修体験発表」  
「先端技術見学会」
- 2 学年 「修学旅行」
- 英語理数科 「課題研究発表」

### 課題研究発表

- 環境工学科 「シルバーリング作成、快適な住まいづくり、ベンチ作成、測量」
- 機械工学科 「ソーラーラジコンカーの製作」
- 電子工学科 「Raspberry Pi を活用したレポート提出BOXの作製」

## 高校の先生から学ぶ会

### ～富士河口湖高等学校 中高地域連携交流事業～



富士河口湖高等学校（小川弘一校長）では、2月3日（月）に下吉田中学校（宮下俐校長）2年生の生徒を対象にした、「出前授業・高校の先生から学ぶ会」を実施しました。この交流事業は「高校の教員から授業及び講話を受けることを通して、高校での学習と生活について理解を深めるとともに、進路決定にあたり現在の自己のあり方を見つめ、将来の自己の生き方について考える機会とする」ことを目的としています。

高校からは、国語・社会（歴史）・数学・理科・英語の5教科の教員が下吉田中学校を訪れ、授業を実施しました。理科の授業では、物理担当の先生が中学生に対して、「光は1秒間に地球を7周半しますが、どうやって速度を測ったのでしょうか。」「光と同じスピードで走ったら、鏡に自分は映るのでしょうか。」といった質問を投げかけました。中学生はグループになって難解な質問について一生懸命考えていました。先生は、「正解・不正解にとらわれることなく考えることが大切だよ。」と付け加えていました。一方、中学生の「高校生活で大切なことはなんですか。」という質問に対する先生の「自分で考えて、行動することで高校生活が楽しく充実したものになります。」という話を聞き、中学生は自分の意識の持ち方の大切さを実感していました。授業をとおして、高校での学習に対する心構えや取り組みについて、部活動等の高校生活の様子についても話がありました。中学生は高校生活や自分の未来に向けて想いを馳せながら、目を輝かせて真剣に授業を受けていました。



# ひばりが丘高校 「通級による指導実践研究」説明会

12月2日(月)・7日(土)、ひばりが丘高校にて「令和2・3年度 ひばりが丘高等学校『通級による指導実践研究』説明会」が実施されました。2016年「障害者差別解消法」の施行を受け、また発達障害等の特性を持つ子どもの増加を背景に、令和2年度から2年間、山梨県教育委員会「高等学校における通級による指導」実践研究校事業の研究指定校となりました。



比較的軽度な発達障害等による特性から様々な課題(特にコミュニケーションに関する課題)を有する生徒が、高等学校の教育課程を他の生徒と共に履修・修得するために、補助的に行う自立活動の指導を目的としています。(各教科の学習の遅れを補充する指導ではありません。)1年次を準備期間とし、個別の教育支援計画・個別の指導計画を立案し、2・3年次に通常の履修する科目に加えて、2年間で4単位の「自立活動(仮称)」(学校設定教科)の設置を計画しています。「自立活動」の内容としては、「健康の維持」「心理的な安定」「人間関係の形成」「環境の把握」「身体の動き」「コミュニケーション」の6分野があり、受講する生徒の特性に合わせて行われます。高等学校は社会に出て働くための通過点であり、通級による指導は学習活動・学校生活において生じる個人のつまずきや課題に対して、改善の可能性を探り、外部機関と連携する中で課題をできる限り改善していくことと、「自立・生きる力」の育成を目指して行われます。詳細は、ひばりが丘高校までお問い合わせ下さい。

## 都留市・西桂町

### 「第23回 生徒の健全育成を目指す中・高連携連絡会議」



12月10日(火)、都留興譲館高校において「第23回 生徒の健全育成を目指す中・高連携連絡会議」が開催され、都留市と西桂町の中学校・都留興譲館高校の教頭、教務主任、生徒指導主事が一堂に会し、情報交換と意見交換を行いました。この会議は、旧都留学区の都留市・西桂町の実態にあった中学教育と高校教育の効果的な連携を探るとともに、一層の理解と推進を図り具体的な取り組みを検討することを目的に開催しています。会議では、各学校での取り組みや課題の報告、今後の中・高連携の具体的な方策等が話し合われます。

今年度5月29日(水)に実施された第1回の会議を受けて、今会議では各学校の取組や現状、課題等の情報交換がされた後、部活動の運営・連携や特別支援を必要とする生徒に関する連携を中心に、中学校の先生方から質問が出される場面もあり、積極的な意見交換が行われました。現在行われている連携に加え、生徒にとってより良い連携の具体的な方策についてそれぞれの立場から貴重な意見がだされました。最後に今後も地域の実態にあった中高の連携を図ることが確認され、会議は終了しました。



## 来年度の地推協主要事業の予定

北都留地域教育推進連絡協議会(地域教育「明日の風」)および南都留地域教育推進連絡協議会の令和2年度主要行事予定は次のとおりです。詳細については、改めてお知らせします。

### ○北都留地域教育推進連絡協議会(地域教育「明日の風」)総会・教育講演会

令和2年7月3日(金) 受付開始:午後1時 会場:大月市立図書館

### ○南都留地域教育推進連絡協議会総会・講演会

令和2年6月17日(水) 開始:午後2時 会場:富士ふれあいセンター

### ○南都留地域教育フォーラム

令和2年10月29日(木) 開始:午後1時30分 会場:下吉田第二小学校(主会場)